

学会録事

1. 日本藻類学会第 32 回大会報告

(1) 日本藻類学会第 32 回大会

上記大会を 2008 年 3 月 21 日-24 日、東京海洋大学海洋科学部(港区)を会場に開催した。

大会 1 日目は午後から東京海洋大学海洋科学部 2 号館において、編集委員会と評議員会を開催した。また、藻類学最前線ワークショップ(ワークショップ I「分子系統解析の基礎と実践」及び共催シンポジウム「藻場を見守り育てる知恵と技術」を開催した。大会 2 日目は終日東京海洋大学海洋科学部講義棟の 2 会場で口頭発表を行った他、午後 3 時からは公開シンポジウム「海藻の社会・経済的インパクト」を、そして午後 6 時からは講義棟大講義室にて日本藻類学会総会を開催した。総会終了後、大学会館食堂で懇親会を催した。大会 3 日目はポスターセッションを挟んで午後 3 時 45 分まで口頭発表を行った。また、午後 4 時から 4 日目にかけては、東京海洋大学水圏科学フィールド研究教育センター館山ステーションに移動して藻類学最前線ワークショップ(ワークショップ II「海藻と付着性微細藻類(珪藻・藍藻・渦鞭毛藻・ハプト藻・鞭毛虫)の分類と生態」を開催し、本大会を終えた。

大会の開催にあたり、大会実行委員会の能登谷正浩氏、藤田大介氏、大葉英雄氏、田中次郎氏、鈴木秀和氏、その他東京海洋大学の研究員、大学院生および学部学生諸子等、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

(2) 編集委員会・評議員会

3 月 21 日午後 3 時から東京海洋大学海洋科学部 2 号館において、英文誌および和文誌の合同編集委員会を開催した。

英文誌については石田英文誌編集長から「Phycological Research」の 2007 年度、2008 年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2007 年度は総頁数 314 頁、掲載論文数 31 編であったことが報告された。2007 年度については 56 巻 1 号に 8 編、2 号に 8 編の掲載があり、56 巻 3 号以降の掲載論文として 8 編が受理されていること、その他 Phycological Research に関して初めてのインパクトファクターが発表され、1.069 (2006 年度)であったことが報告された。また、2008 年度の英文誌発行経費に関する Wiley-Blackwell との契約についての説明があった。

和文誌については北山和文誌編集委員長より「藻類」55 巻および「藻類」56 巻の編集状況に関する報告があった。2007 年に発行された「藻類」55 巻には 4 編の原著論文や総説のほか、学会講演要旨や企画記事等が掲載され、総頁数は 238 頁であったことが報告された。また、編集に関連した 2007 年度の改善点や 2008 年度の編集方針についての説明があった。

評議員会は編集委員会終了後、同会議室にて午後 4 時半より開催された。川井会長を議長に選出し、2008 年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。その内容に関しては総会の項を参照されたい。

(3) 2008 年度総会

3 月 22 日の口頭発表終了後、午後 6 時より東京海洋大学海洋科学部講義棟において総会を開催した。川井会長の挨拶の後、筑波大学の井上 勲氏を議長に選出して総会の議事に入った。

[報告事項]

・庶務関係

(1) 会員状況 (2008 年 3 月 15 日現在): 名誉会員 5 名、普通会員 940 名 (国内・一般 657 名, 国内・学生 139 名, 外国 144 名), 団体会員 53 名, 賛助会員 15 名, 国内購読 18 件, 国外購読 4 件。

(2) 2007 年度事業報告: 1) 日本藻類学会第 31 回大会・編集委員会・評議員会・総会 (神戸大学理学部, 3 月 23 日-25 日) の開催, 2) 和文誌「藻類」55 巻 1-3 号を発行, 3) 英文誌「Phycological Research」55 巻 1-4 号を発行, 4) 第 10 回日本藻類学会論文賞 (大田修平氏, 植田邦彦氏, 石田健一郎氏) の授与, および第 11 回日本藻類学会論文賞の選考, 5) 第 3 回日本藻類学会研究奨励賞 (加藤亜記氏) の選考, 授与及び第 4 回日本藻類学会研究奨励賞の募集, 6) 第 9 回国際海藻シンポジウムの共催, 7) 小笠原諸島の海藻類の多様性調査, 8) 第 10 回マリンバイオテクノロジー学会大会への協賛。

・会計関係

(1) 2008 年度 3 月 11 日現在の 2007 年度会費納入率 (雑誌発送会員を対象) は、普通会員 (国内・一般) 95.7%, 普通会員 (国内・学生) 71.2%, 普通会員 (外国) 76.9%, 賛助会員 73.3%, 団体会員 74.1%であった。

(2) その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2007 年度に発行した和文誌「藻類」55 巻 1-3 号は、総頁数 238 頁、内訳は原著論文・総説 4 編、その他であった。

(2) 2007 年度に発行した英文誌「Phycological Research」55 巻 1-4 号は、総頁数 314、掲載論文数 31 編であった。また、56 巻についても順調に編集作業が進んでいるとの報告があった。これらに関連した詳細については、前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

[審議事項]

・庶務関係

(1) 2008 年度事業計画として以下の事項が承認された:

1) 日本藻類学会第 32 回大会・評議員会・編集委員会・総会 (東京海洋大学 3 月 21 日-3 月 24 日) の開催, 2) 第 11 回日本藻類学会論文賞の授与と第 12 回日本藻類学会論文賞の選考, 3) 第 4 回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 授与と第 5 回日本藻類学会研究奨励賞の募集, 4) 和文誌「藻類」56 巻 1-3 号の発行, 5) 英文誌「Phycological Research」56 巻 1-4 号の発行, 6) 日本藻類学会会長選挙, 評議員選挙の実施, 7) シンポジウムの開催, 8) 第 11 回マリンバイオテクノロジー学会大会への協賛。

表 1. 2007 年度一般会計決算 (2007. 1. 1-2007. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
会費	6,514,000	英文誌経費	7,505,310
普通 (国内・一般)	4,058,000	和文誌経費	2,911,546
普通 (国内・学生)	320,000	編集費	300,000
普通 (外国)	431,000	英文誌編集補助費	200,000
団体会員	1,255,000	和文誌編集補助費	100,000
賛助会員	450,000	庶務費	187,671
販売代金	18,000	事務用品費	9,614
バックナンバー	18,000	会議費	27,002
広告代	140,000	印刷通信費	86,060
和文誌別刷, 超過頁代	477,100	諸雑費	64,995
英文誌掲載料	79,041	大会補助費	120,000
受取利息	6,556	自然史学会連合分担金	40,000
英文誌版權還付金	288,396	日本分類学会連合分担金	10,000
和文誌複写使用料	3,093	口座振替サービス導入経費	1,270
寄付金	433,067		
小計	7,959,253	小計	11,075,797
前年度繰越金	11,258,129	次年度繰越金	8,141,585
合計	19,217,382	合計	19,217,382

表 2. 2007 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (2007. 1. 1-2007. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	4,016	論文賞用雑費	800
小計	4,016	小計	800
前年度繰越金	2,594,566	次年度繰越金	2,597,782
合計	2,598,582	合計	2,598,582

表 3. 2007 年度研究奨励賞事業特別基金会計決算 (2007. 1. 1-2007. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	2,296	奨励賞賞金	100,000
小計	2,296	小計	100,000
前年度繰越金	2,000,175	次年度繰越金	1,902,471
合計	2,002,471	合計	2,002,471

日本藻類学会 2007 年度決算報告に対し記名捺印する。 2008 年 3 月 20 日

会 長 川井 浩史 印

会計幹事 田辺 祥子 印

決算書が適正であることを認める。

2008 年 3 月 19 日

会計監事 渡部 雅博 印

伊藤 裕之 印

表 4. 2008 年度一般会計予算 (2008. 1. 1-2008. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
会費	6,622,450	英文誌経費	6,000,000
普通 (国内・一般)	4,195,200	和文誌経費	2,300,000
普通 (国内・学生)	479,750	編集費	300,000
普通 (外国)	532,000	英文誌編集補助費	200,000
団体会員	988,000	和文誌編集補助費	100,000
賛助会員	427,500	庶務費	260,000
販売代金	520,000	事務用品費	10,000
定期購読	500,000	会議費	30,000
バックナンバー	20,000	印刷通信費	160,000
和文誌別刷, 超過頁代	500,000	諸雑費	60,000
英文誌掲載料	60,000	幹事旅費補助	40,000
広告代	280,000	大会補助費	120,000
受取利息	6,000	シンポジウム補助費	20,000
和文誌複写使用料	3,000	自然史学会連合分担金	20,000
英文誌版權還付金	230,000	日本分類学会連合分担金	10,000
寄付金	50,000		
小計	8,331,450	小計	9,070,000
前年度繰越金	8,141,585	次年度繰越金	7,403,035
合計	16,473,035	合計	16,473,035

表 5. 2008 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (2008. 1. 1-2008. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	4,000	論文賞用雑費	2,000
小計	4,000	小計	2,000
前年度繰越金	2,597,782	次年度繰越金	2,599,782
合計	2,601,782	合計	2,601,782

表 6. 2008 年度研究奨励賞事業基金特別会計予算 (2008. 1. 1-2008. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	3,000	奨励賞賞金	100,000
小計	3,000	小計	100,000
前年度繰越金	1,902,471	次年度繰越金	1,805,471
合計	1,905,471	合計	1,905,471

・会計関係

(1) 2007 年度一般会計決算報告および同監査報告 (伊藤裕之会員, 渡部雅博会員) は表 1 の通り承認された。

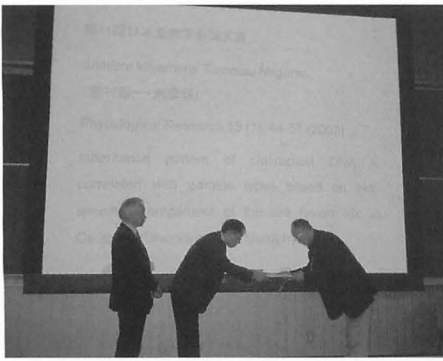
(2) 2007 年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表 2 の通り承認された。

(3) 2007 年度研究奨励賞事業特別会計の決算報告および同監査報告は表 3 の通り承認された。

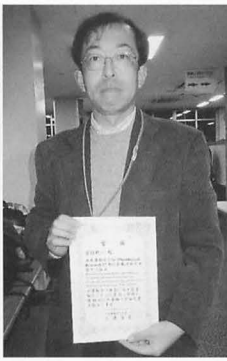
(4) 2008 年度一般会計, 山田幸男博士記念事業特別会計, および研究奨励賞事業特別会計の予算は表 4, 表 5 および表 6 の通り承認された。

・その他

(1) 日本藻類学会第 34 回大会の開催地をつくば市とすることが承認された。



論文賞授賞式と受賞者の宮村新一氏（中央）・南雲 保氏（左）



研究奨励賞授賞式

[日本藻類学会論文賞授与]

第11回日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは2006年から2007年にかけて出版された英文誌「Phycological Research」vol. 54 (4), vol. 55 (1)–(3)の中から、規定により審査員の投票によって選ばれ、総会前日に開催された合同編集委員会および評議員会で了承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ、論文の著者にそれぞれ賞状が授与された。

Shinichi Miyamura, Tamotsu Nagumo.

Phycological Research 55 (1): 44–57 (2007)

Inheritance pattern of chloroplast DNA is correlated with gamete types based on sex-specific arrangement of the cell fusion site in *Caulerpa* (Ulvophyceae, Chlorophyta).

[日本藻類学会研究奨励賞授与]

第4回日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後、評議員会で了承されたものである。今回は内藤佳奈子氏（県立広島大学生命環境学部環境科学科、微細藻による鉄取り込み機構と赤潮発生メカニズムの解明）が選ばれ、賞状および副賞（賞金10万円）が授与された。

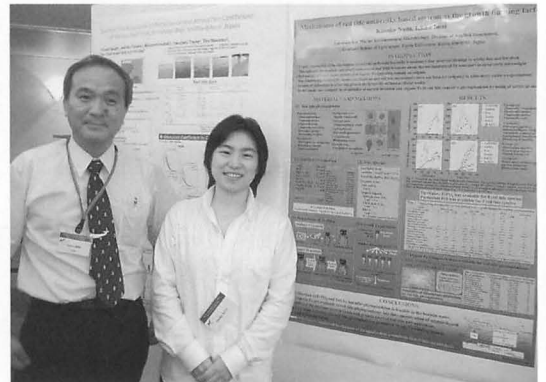
2. その他の報告

平成20年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の「Phycological Research」への申請について：昨年申請した上記補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」については、採用されなかった旨、日本学術振興会から連絡があった。

第4回日本藻類学会研究奨励賞

内藤佳奈子

受賞者の言葉 このたびは第4回日本藻類学会研究奨励賞を頂き、誠にありがとうございました。若手研究者として、このような名誉ある賞をいただくことは誇りであり、研究に対する意欲と情熱、責任感が更に高まりました。京都大学大学院在学中に行った微細藻類による鉄取り込み機構に関する研究を評価していただいたことは大変嬉しく、選んでいただいた推薦委員の方々、ご指導いただいた先生方、支えてくださった皆様に心より感謝いたします。特に農学研究科の今井一郎先生には、化学専攻であった私に研究始点から赤潮藻類について御指導いただきました。日本藻類学会で活躍できるのは、ひとえに今井先生の多大なご尽力の賜物であります。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。この賞を励みといたしまして、今後も研究教育に対して真摯に取り組み、藻類学の発展に貢献できるよう、持ち味である化学分析技術を活かした微細藻類の生理生態に関する研究を遂行していきたいと思っております。



The First International Workshop on HAB in the Northwest Pacific Region (Sky Hall, Toyama, June 30–July 1, 2005) (左：今井一郎先生，右：筆者)

講評 2008年度日本藻類学会研究奨励賞受賞者の内藤佳奈子氏は、微細藻類が増殖する際にどの様にして海水中の制限要因である鉄を取り込むのかを一貫したテーマとして研究を行ってきました。その間、赤潮ラフィド藻などの培養を可能とする人工合成培地を新たに開発し、それを基本培地として栄養実験を行い、微細藻の増殖律速要因としての鉄の重要性を明確に示しました。さらに微細藻が鉄キレーターの一つであるシデロフォアを生産している可能性を示しました。これらの研究は赤潮発生機構の解明といった水産学的見地からの重要性にとどまらず、地球水圏における主要な一次生産者である藻類の栄養生理学・生理生態学の分野においても高い評価に値するものです。内藤氏は自身の成果を学術論文・総説・解説・報告書等を通して数多く発表しており、国際学会・国内学会にも積極的に参加しています。以上の理由により、本年度研究奨励賞選考委員一同は内藤氏が研究奨励賞にふさわしいものと判断しました。

推薦委員会委員長 本村泰三